

## <ひとこと>

# 地域包括ネットワーク会議

「地域包括ネットワーク会議」は各地域包括が主催して開く会議ですが、柏東口包括の会議が1月24日に開かれ、主題は「詐欺被害の予防―地域ネットワークによる予防策」

① 警察から詐欺被害の現状について、最近では振込め詐欺はしづらくなっていることもあり、内容が多様化、数日間にわたってだます手口があるなど手口はどんどん巧妙に。昨年度は柏市の被害件数1,111件、被害総額は1億2千万円、高額の場合は三千万円というケースも。

② 消費生活センターから65歳以上の相談が全国的に増えている。内容はもうけ話のトラブル、利殖商法。一千万円以上も珍しくない。利殖型、当選商法、買取商法、健康食品の送付、点検商法、健康講座などの催商法など。3X(健康・孤独・金)の隙間に巧みに入り込む。

③ 消費生活コーディネーターの寸劇の後、グループワークがありました。認知症や独居の高齢者を詐欺被害から守るためには地域でどんなことができるかというテーマで、現在、地域で取り組んでいること、今後の取り組みについて

- ・ 近所付き合いの薄い人、サロンにも出てこない人への働きかけは、あきらめず声をかけていくこと

- ・ 普段からお互いに電話でもいいので連絡しあう関係をつくること
- ・ 見かけない若い人が出入りしていたら、その家に声をかけや民生委員に知らせる。
- ・ 詐欺被害事例をサロンなどの集まりで発表する
- ・ 防災の取り組みをきっかけに声をかけていく
- ・ など、活発な意見が交わされました。近所関係は適度な距離と適度な関心を持ちながら、「お互い様」を実行していければよいと思いました。

## 中核地域生活支援センター 連絡協議会研修部会

1/11 に中核地域生活支援センター連絡協議会研修部会に参加しました。

今回は社会福祉法人ワーナーホームの寺田理事長から「自立支援協議会及び相談支援センターの現状と今後」と題した講義がありました。

障害者自立支援法の中で自立支援協議会は「障害者等への支援体制に関する課題について情報を共有し、関係機関等の連携の緊密化を図るとともに、地域の実情に応じた体制の整備について協議を行うもの(一部抜粋)」との記載があります。自立支援協議会は、個別の事例から出てきた課題を地域全体の課題と位置づけ、その課題の解決を図るものであるとの説明がありました。

私自身、個別の課題を集約してみると、意外と共通した課題があるように思います。例えば、手帳を持たない(ひきこもりやボーダーの方)の就労先、障害児の放課後のサービスの不足や送迎の問題等・・・個別のケースに接していると、「前にも似たような相談があったな」と感じる事があります。実はそれが地域の課題であり、その解決を図るのが自立支援協議会になるのだと改めて感じました。

H18年にスタートした相談支援事業ですが、H24年4月1日の障害者自立支援法の中で「相談支援体制の強化」が明記されました。千葉県データを見てみると、H24年度にサービス等利用計画を支給決定した件数(H24.9時点)は978件。H26年度までにサービス等利用計画等を支給決定予定数は29791件となっています。しかし、実際にH26年度に利用計画が必要な人は5万人を超える見込みであり、圧倒的に利用計画を作る事業所が不足してしまうとの事でした。また、相談支援の地域差もあり、H24年度の地域「定着」相談支援では東金市が30件、次いで千葉市が10件、船橋市が7件ですが、東葛地区のほとんどの地域が0件でした。市町村の考えや取り組みで支給決定が決定しているのが現状との事でした。

「相談を考える」という講義では、相談場面で「抽象的な相談から具体的にする作業が重要である」という話がありました。日々の相談業務の中で、相談内容が曖昧である事があります。その時、相談者が問題を整理出来ていないのか、支援者が問題を整理する事が出来なかったか、精査する必要があるように感じます。抽象的な相談の中から問題を整理し、優先順位を付け、困りごとを明確化し、具体的な解決方法を考えていく必要性を感じました。日々の業務に活かしていきたいと思えます。

## 柏市高齢者虐待防止ネットワーク 運営委員会

2回目の委員会が1月10日に開催されました。

平成23年度の柏市の特徴について

身体的虐待の割合が大幅に増加し、22年度が56%に対し23年度85.1%。全国(64%)、千葉県(68%)に比べても非常に高い。分離を行った件数がほぼ倍増しており、うち74%が身体的虐待によるもの。相談・通報件数が増加しているが、事実確認の結果として認定に至った件数とその割合は減少している。

被虐待者は認知症ありが82%と国・千葉県と同様に高い割合となっている。通報者は全国・千葉県・柏市とも、介護職員からの相談・通報が最も多い。柏市では民生委員からの相談・通報の割合が高い。

それに伴い、市長申し立ての件数も増加傾向にあり、11月末現在で12件の市長申し立てあり、その中で虐待件数は4件、審判確定は6件となっているとの報告がありました。

また柏市は、被虐待者は70代が比較的多く、年齢的に若いのも特徴です。あいネットが関わったケースでも、介護保険対象ではない70代で、被虐待者本人の通報によるものがありました。同居の息子による虐待ですが、高齢になると今までの家族関係の立場の逆転が起こってしまっているものでした。

認知症を発症している人が虐待を受ける割合が高いことは予想に難くないことですが、痛ましいことです。認知症の中核症状を理解することや、家族だけで抱えこまないように早期からの周囲の関わりが不可欠です。最近の調査では、認知症患者はすでに400万人に達しており、もしこのままの状態が増え続けると、2030年には530万人になると言われています。2030年の日本の推定人口は約1億1千万人ですから、国民の100人に5人が認知症ということになります。世界に類をみない超高齢社会が社会の

# ジョブサU18 柏



J R 柏駅の東口から徒歩 7 分の場所に障がい児通所支援事業所「ジョブサU18 柏」がH24 年 12 月に開設されました。  
代表取締役社長の荻野さんにお話を聞きました。

## どんな方が対象ですか？

18 歳以上（中 2～高 3）の自力で通える、主に知的障害・精神障害の方を対象にしています。  
定員は 10 名です。

## スタッフは何人位いますか？

介護福祉士、パソコンスクールの元講師、音大卒等のスタッフが 5 名います。

## 開所時間は？

（月）～（金）の 17 時～18 時半です。月 1 回程度、（土）にイベント行事があります。  
お電話でのお問い合わせは 10 時～19 時まで対応しています。

## どのような内容ですか？

企業が採用する際、一番大切にしているのがコミュニケーションです。ジョブサU18 柏では「劇場型ラーニング」を行い、「コミュニケーション」能力を育む事を大切にしています。

「劇場型ラーニング」は「コミュニケーション」「ケーススタディ」「アクティビティ」「演劇実習」の 4 つの柱から成り立っています。

「ケーススタディ」では予想外の状況を設定し、みんなで討論をします。例えば、電車が遅れて約束の時間に間に合わない状況を設定し、対処方法をみんなで話し合い、実際の場面で対応が出来るようにします。「アクティビティ」ではストレスをため込まないための息抜き方法として、皆で一緒にゲーム等をして楽しみます。

「演劇実習」では、演劇を用いて自己表現の方法を学び、気持ちを上手くコントロールできるようにします。

## 「ジョブサU18 柏」をどんな場所にしていきたいですか？

少なからず、みんな心に傷を持っています。「ジョブサU18 柏」では、心が傷つく時間を短くしてあげたいという思いがあります。ここにいる間は皆に笑って楽しんで欲しいと思っています。ここでの時間の積み重ねの中で、心の痛みの助けになって欲しい。少しずつ自信を持ってもらい、社会に出る力を学んで欲しいと思っています。


「ジョブサU18 柏」のスタッフは、これまで豊富な社会経験をされてきた方々が名を連ねています。

ここは、多方面から自然な形でコミュニケーション能力を学ぶ事の出来る場所であると感じました。

**～お問い合わせ先～**

**<住所>**  
〒277-0021 千葉県柏市中央町 6-9 コープビル柏 5 階

**<TEL>**  
04-7160-1130 (月～土 10:00～19:00)



◇こちらのコーナーへ掲載希望の方は、あいネット（電話：04-7165-8707 FAX：04-7165-8709）まで◇

講演名	日時	場所	費用	申込み	問合せ先他
現場から問う生活支援のあり方 ー生活支援戦略における 総合相談支援センター構想についてー	平成 25 年 3 月 2 日 (土) 13:00～	@主婦会館プラザエ フ 8 階会議室 「スイセン」 東京都千代田区 六番町 15 番地	1,000 円	事務局へ 連絡	山田治彦法律事務所 TEL：06-6360-2031 FAX：06-6360-2032
親が突然「うつ病」に 子供は？どう生きてきたか 講師：ひだクリニック院長 肥田裕久	平成 25 年 3 月 2 日 (土) 開場 13:15 13:45～16:00	アビーホール (我孫子駅徒歩 1 分イトーヨーカ ドー3 階)	無料	参加希望の 方は直接開 場にお越し ください	